

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第702号 平成26年3月11日

3・11に生まれた君へ

東日本大震災は、日本に未曾有の被害をもたらしました。東北各地を見ると、いまだに深い傷跡は残されたままです。

東日本大震災によって1万5千人を超える多くの尊い命が奪われ、今なお行方が知らない方々も沢山おられますが、まさに「あの日」「あの時」に、東北の地では104の新しい命が誕生していました。

「3・11に生まれた君へ」は、東日本大震災の最中に新しい命の誕生を迎える事となった家族の手記を纏めた1冊です。

家族の手記を纏めた「君の椅子プロジェクト」は北海道で誕生した取り組みで、2006年から東川町等4つの自治体と連携しながら、地域に誕生した子ども達に「君の椅子」を贈り続けています。



この「君の椅子プロジェクト」は、東日本大震災の「あの日」に誕生した子ども達にも「生まれてくれてありがとう。君の居場所はここにあるからね」という思いを伝えようと、一昨年の12月から昨年の2月にかけて、名前の分かった98人の子ども達に「希望」という名の「君の椅子」を送っています。

3月11日、この日は、日本人にとって忘れてくても忘れる事の出来ない1日となりました。犠牲者の中には幼い子ども達も沢山います。

子どもを失った親達は、今どうしているのでしょうか。無事だった子ども達の成長の姿を今はなき我が子の姿と重ね合わせながら、人知れず涙を流しているのではないかと胸が痛みます。

そして、そう感じているのは、勿論私だけではありません。

「3・11に生まれた君へ」の中では、大地震によって何もかもが大混乱する中で出産する事になった恐怖と、「こんな時に産んでしまって申し訳ない」という自分を責める様な複雑な心境も綴られています。

新たな命の誕生は喜ぶべき事ですが、それが「あの日」「あの時」に、まるで沢山の犠牲と対をなす様にして誕生した為に、その誕生を素直に喜び、祝う事が出来な

いというのは何と不幸な事でしょうか。

新しい命を迎えた家族の、喜びたくても素直に喜びを表現出来ないという、心の奥底に抱く重荷を解きほぐし、解放したのは、「君の椅子プロジェクト」から送られた「希望」という名の「君の椅子」でした。

東日本大震災は、日本に大きな犠牲を強いるものでした。今もなお、立ち上がれない程の絶望を感じている人は少なくありません。

しかし、新しい命の誕生は、被災された多くの人々はもとより私達にとっても、「どっこい我々は、簡単には負けないぞ」という大きな希望の輝きなのです。「君の椅子」を手にした家族の「自分の子どもが無事に生まれて来てくれた事を素直に喜んで良いんだと思った」という述懐は、その事を強く感じたからに違いありません。

「君の椅子」の存在は、それぞれの子にとって、自分が両親はもとより地域の人々からも喜びを持って迎えられたのだという事、そして何よりも、自分には確たる居場所が有るのだという事の証明といえるでしょう。それと同時に「3・11に生まれた君へ」を読んでいて感じる事は、それぞれの親にとっても、「希望」という名の「君の椅子」は大事な居場所になっているに違いないと強く感じています。

(塾頭：吉田 洋一)